

平成27年度全国学力・学習状況調査の結果および考察

【学力調査結果の概要】

本校の国語・数学・理科の平均正答率は、すべての教科・領域で、全国平均を上回っています。しかし、学習に対する意欲に課題があり、「勉強が好き」という生徒の割合は全国平均を下回っています。また、通塾率がかなり高く、宿題や課題を提出しているにもかかわらず、自ら計画的に予習や復習などの家庭学習をしている生徒の割合は低いなど、学習に対する姿勢が受動的であり、創意工夫に欠ける生徒が多くなっていると考えられます。また、無解答率も増加しています。

<国語A：主として知識>

(成果)

- ・平均正答率は、すべての領域で前年同様の結果を残すことができました。前年度、全国平均正答率を下回っていた「話すこと、聞くこと」、「読むこと」に関して改善がみられ、それぞれ正答率の全国比（本校平均正答率／全国平均正答率）が、「話すこと、聞くこと」で0.05ポイント、「読むこと」で0.04ポイント上昇しました。
- ・「言語についての知識・理解」は、昨年同様良好な結果が得られ、特に単語の種別についての理解をみる問題では、全国平均正答率を大きく上回りました。
- ・「文脈に即して漢字を書く・読む」という趣旨の問題についても成果がみられ、前年度の本校正答率より「書く」で1%、「読む」で5%上昇しました。毎週火曜日朝に行っている「漢字テスト」の取組みの成果だと思えます。

(課題)

- ・「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」問題については、本校平均正答率が前年度より10%も減少するなど課題がみられました。特に『縁』の下の力持ち」を選択する問題では、本校平均正答率が全国平均正答率を下回りました。
- ・「必要に応じて質問しながら聞き取る」という趣旨の問題では、二問とも本校平均正答率が、全国平均正答率を下回りました。

<国語B：主として活用>

(成果)

- ・すべての領域で前年同様、全国平均を上回る結果を残すことができました。特に、「読むこと」に関する領域では、前年度より平均正答率が10%以上、上昇しました。
- ・「書く能力を試される問題」では、本校平均正答率は全国平均正答率を上回り、その差は昨年より4.6%上昇しました。特に「資料の提示の仕方を工夫し、その理由を書く問題」では成果がみられます。
- ・「国語への関心・意欲・態度」に関わる問題では、本校平均正答率が全国平均正答率を上回り、その差が昨年より4.6%上昇しました。また、生徒質問紙における、「国語の勉強が好き」「国語の授業の内容がよく分かる」という生徒の割合も、前年度より25%以上増加しており、国語に対する意欲的な姿勢がみられます。

(課題)

- ・「書く能力」に一定の成果が得られたとはいえ、実際に、本校生徒の「自分の考えを書く」という問題（2問）の平均正答率は3割程度にとどまっています。特に、複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書くことに課題がみられます。
- ・「話すこと・聞くこと」においては、「状況に応じて、資料を活用して話すことができるかどうかをみる」問題での、本校平均正答率が全国平均正答率を下回り、課題がみられます。

<数学A：主として知識>

(成果)

- ・すべての領域で全国平均を上回っており、基礎的・基本的な知識や技能については、多くの生徒が身につけています。
- ・「数と式」の領域、特に「等式を目的に応じて変形できるか」をみる問題では、全国平均を上回るなど、多くの生徒が十分理解しています。
- ・「関数」領域については、本校平均正答率は全国平均を上回っており、特に「比例のグラフにおける、Xの変域に対応するYの変域について理解しているか」では、全国平均を大きく上回りました。

(課題)

- ・「数量関係を文字式で表すことができるか」をみる問題の正答率は、全体の4分の1程度でした。問題文から事柄や数量の関係を捉え、その関係を文字式に表すことに課題がみられます。
- ・「関数の意味を理解しているか」をみる問題では、8割以上の生徒が正解しましたが、全国平均正答率を下回りました。
- ・「1次方程式の解を座標とする点の集合は、直線として表されること」を理解していない生徒が4割近くおり、課題がみられます。

<数学B：主として活用>

(成果)

- すべての領域で全国平均率を上回っており、基礎的・基本的な知識や技能を活用する能力についても、多くの生徒が身につけています。特に前年度に比べ、正答率の全国比（本校平均正答率／全国平均正答率）が、「図形」、「資料の活用」で改善され、それぞれ 0.08 ポイント、0.16 ポイント上昇しました。
- 「具体的な事象の中に数量関係を見だし、それを文字を用いて式に表現できるか」をみる問題では、全国平均を大きく上回りました。
- 「与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することかできるかどうか」をみる問題では、全国平均を大きく上回りました。
- 「記述式」のすべての問題において、本校平均正答率は全国平均を上回り、意欲的に取り組む姿勢がみられます。

(課題)

- 「与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理すること、その結果を事象に即して解釈すること、数学的な表現を用いて解釈した理由を説明すること」「資料の傾向を的確に捉え、数学的な表現を用いて判断する理由を説明すること」に課題がみられます。
- 問題全体を通して、無解答率が昨年より増えています。

<理科>

(成果)

- 本校平均正答率は全国平均を上回り、その差は前回調査に比べ、3.2%上昇しました。
- 主として「知識」に関する問題での本校平均正答率は、全国平均を上回っており、基本的な知識は十分に身につけています。特に「オームの法則を使って、抵抗の値を求める」問題では、全国平均を大きく上回るなど多くの生徒が基本的計算力を身につけています。
- 主として「活用」に関する問題での本校平均正答率は、全国平均を上回っており、「科学的思考・表現」の観点においても、概ね満足できる結果が得られました。
- 記述式の問題でも、本校平均正答率は、全国平均を上回っており、無解答率が低いなども含めて、意欲的に問題解決に取り組む姿勢がみられます。

(課題)

- 「地学的領域（今回は気象分野）」の本校平均正答率は、全国平均を下回っており、気象観測を日常生活と結びつけ、理科を学ぶ意義に気づくような学習場面を設定する必要があります。
- 「知識をもとに、資料と水の状態変化を関連づけて、雲の成因を正しく説明する問題」のように、資料や長い問題文から、解答を導き出すための必要な情報を取り出すことに課題がみられます。
- 「空気を徐々に抜いていく操作によって生じる気圧の変化」が「上昇する飛行機の状況」と対応していると認識することに課題があります。また、モデルを使った実験の指導に、さらなる工夫が求められています。

<本校の学力向上に関する取組み>



<今後の改善方向・取組み>

1. 学力向上に必要な意識を高めるための取組み

学力向上に最も必要なことは生徒の意欲であり、それを支えるのは集団としての生徒の団結、そして生徒と教師の信頼関係です。学校が、学年が、クラスが安心・安全な場所であり、そこで互いに認め合い、支え合う人間関係・信頼関係があつてこそ、生徒の意欲は高まり、学力向上にもつながります。狭山中では、規範意識を高め、団結力をつけ、コミュニケーション力を磨き、充実した人間関係や信頼関係を築くために、「ほめること」や「認めること」を積極的に行うとともに、上の写真のような取組みを大切にしています。

2.学力向上のための取組み

生徒の意欲を形にし、学力向上を図るために、次のような取組みを行っていきます。

- ◎質問や疑問に対して、単に答えを教えたり解説を加えるのではなく、より具体的な解決の手だてを提示したり考えるヒントを提供することで、主体的に解決しようとする姿勢を育てます。
- ◎板書を写すだけでなく、自分の考えをノートに記すように指導することで、思考力や表現力を伸ばします。
- ◎「課題や宿題の提出」について丁寧に指導し、点検・評価をきめ細かく実施することで、個々の能力の把握と改善に努め、家庭学習の充実を図ります。
- ◎数学、英語、国語で実施している少人数習熟度別指導をさらに充実させ、生徒が主体となって互いに教え合ったり、説明し合ったりできる授業作りを進め、「やればできる」という達成感と「皆が頑張っているから自分も頑張ろう」という連帯感を体験させ、主体的に学ぶ意欲を高めます。
- ◎定期テスト前にはテスト前質問会を実施し、夏休みや放課後には大学生やボランティア等の学習支援チューターの協力のもと、自習学習を実施していきます。
- ◎生徒が意欲・関心をもつような、わかりやすく楽しい授業、活気のある授業が展開できるように、各教科で授業研究・相互意見交換に努めます。
- ◎班活動を重視した取組みが、仲間意識の高揚と表現力の強化につながっています。特に、意見交換など発言する機会を多く設けることが、自分の考えをまとめる力や表現力の向上につながっています。
- ◎授業のねらいを提示し、小テストや振り返りの時間を設定します。また、めあてや振り返り、重要ポイントの示し方を揃えるなど可能な限りユニバーサルデザインを心がけます。
- ◎プロジェクターやパソコンなどのICT機器を活用し、授業の工夫や改善に努めます。
- ◎生徒や保護者による授業評価を行い、今後の指導や授業改善に生かします。

3.地域・外部人材の活用した取組み

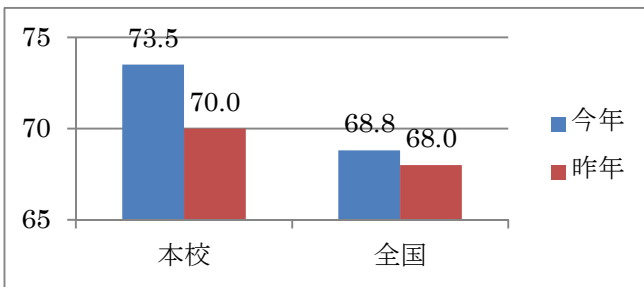
多様な生徒の意欲を引き出すために、様々な人材や教材を活用します。

- ◎道徳の時間では、「私たちの道徳」や学校作成教材を使い、各教科や行事と関連づけながら、学校・学年・クラスがより安心・安全な場所になるよう、感性、人間性、社会性を磨くような時間にします。また、身体や健康、安全、平和など専門家や体験者のお話を聞く機会を設けます。
- ◎地域の専門家の方々や図書ボランティアさんに支援をいただき、学習指導や部活動指導、読書指導の充実を図ります。
- ◎「さやまっ子ティーチャー」を活用し、支援が必要な生徒への働きかけを行っていきます。

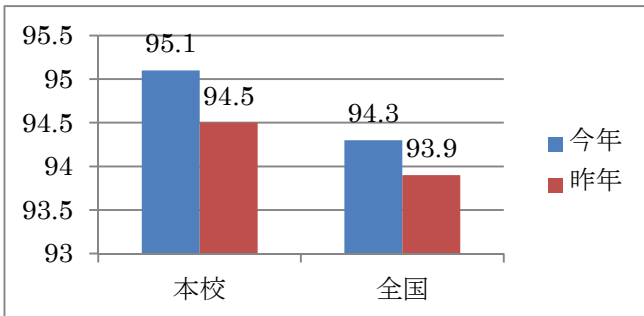
【生徒質問紙による学習状況調査結果の概要】

○全国と比較して、本校の生徒の特徴として注目した項目について、その状況をお知らせいたします。

1. 自己肯定感の向上



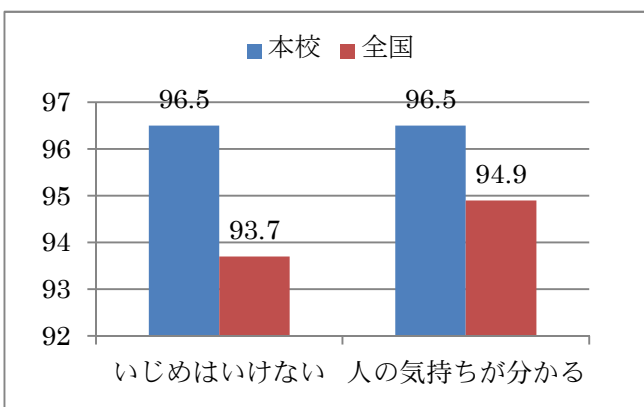
「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦するか」



「ものごとを最後までやり遂げうれしかったこと」

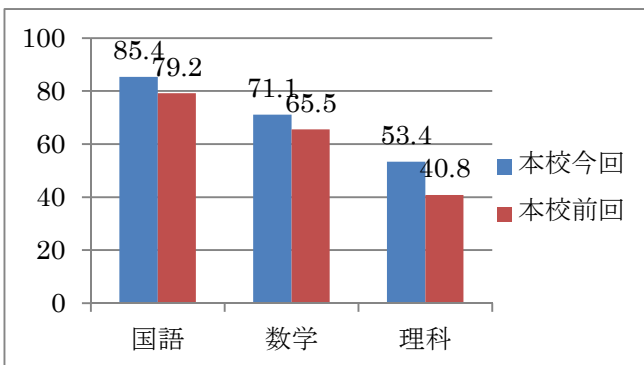
左のグラフは、上段が「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦するか」、下段が「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがあるか」という項目の、「あてはまる、ややあてはまる」の合計%の比較です。本校生徒は、全国比、昨年比とも上回っています。いろいろな事に粘り強く取り組み、達成感を味わった経験を持つ生徒が多く、その結果、昨年度に比べ、自分にはよいところがあると思っている生徒が2.9%、将来の夢や目標を持つ生徒が2.4%上昇するなど、自己肯定感を持つ生徒が増えています。また、友達の前で自分の考えや意見を発表するのが得意な生徒の割合が、昨年の44.6%から今年54.9%と増加しており、積極的に活動的な生徒が育っています。

2. 仲間意識等と授業規律



左のグラフは、「いじめは、いけないこと」「人の気持ちが分かる人間になりたい」と考える生徒の割合です。この結果より、本校の生徒は仲間意識が強く、互いの存在を大切にしている様子が窺えます。例年、これらの内容は、多くの生徒が支持しており、安心・安全であることが授業規律の確立に大きく影響していると考えています。

3. 学習に対する意識

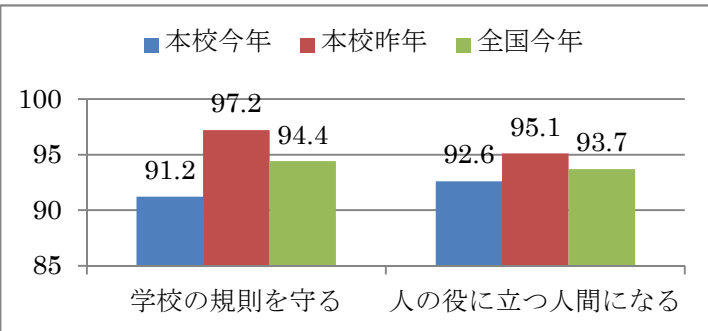


「学習したことは、社会に出たときに役に立つか」

左のグラフは、「教科で学習したことが、将来、社会に出たときに役に立つか」という質問に対する回答です。各教科とも、学習内容が将来の自分のためと考えて、授業に参加している生徒が増えていることがわかります。「宿題を必ずする生徒」「塾に通っている生徒」の割合が多いことも含めて、学習に対する意識が高いことがわかります。

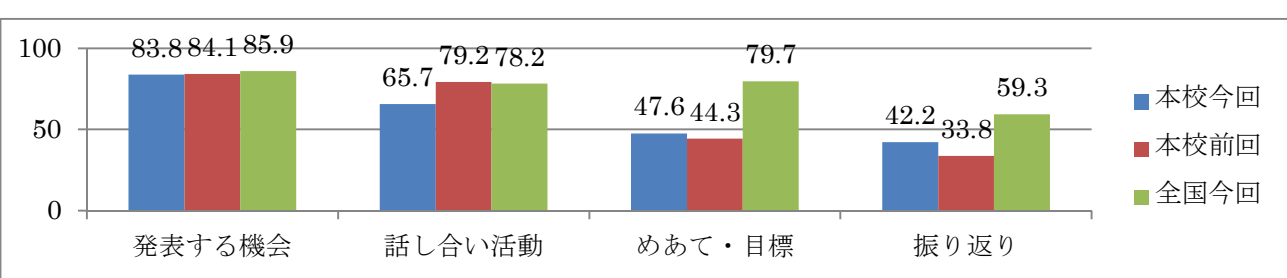
＜課題として受け止めている事項＞

1. 規範意識の低下



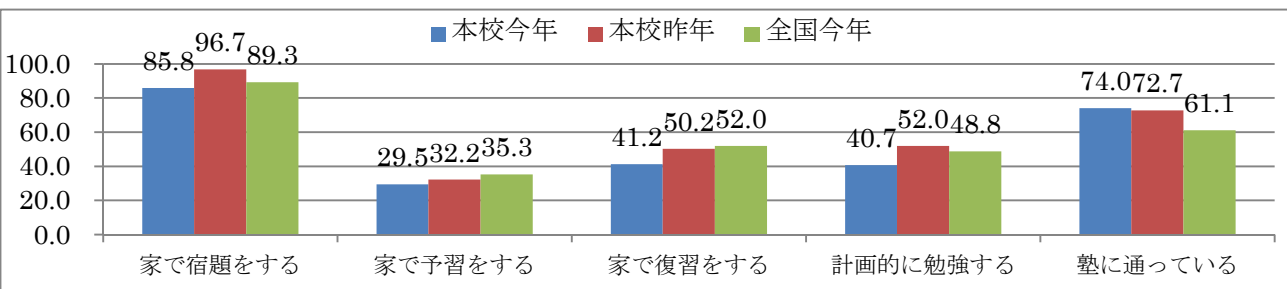
昨年に比べ、「学校の規則を守る」「人の役に立つ人間になる」ということを、大切だと意識している生徒の割合が低下しました。規範意識は、すべての教育活動に密接な関係があり、社会形成者としても必要な要因であると考えています。より一層、道德教育に力を注いでいきます。

2. 授業に関して



教科学力は、国語・数学・理科のすべての領域において、良好です。しかし、複数の教科において、「授業が好き」「授業が分かる」という生徒の割合が全国平均を下回っています。その要因として考えられるのが、上のグラフに示されている部分です。授業の中で、自分の考えを話したり、まとめたり、発表をする場面が少なく、授業形態が、プロセスより結果を重視する形に陥っているのではないかと思います。授業のめあてを示し、しっかりと振り返りを行うことを含め、生徒が意欲的に参加し、主体的に活動できる授業形態への改善が必要であると考えています。

3. 生活習慣・学習習慣に関して



家庭学習では、72.6%もの生徒が2時間以上勉強していると回答しています。また、宿題をきちんとする生徒も85.8%おり、家庭学習の習慣はついています。ただ、7割以上の生徒が塾に通っており、塾以外で予習や復習をする生徒や計画的に勉強する生徒の割合は全国平均を下回っています。家庭学習は、宿題と塾に依存している実態があります。また、「早寝・早起き・朝ご飯」に関する課題も依然としてあります。平日、夜遅くまで、塾通い、音楽やゲーム、スマートフォンでの友達とのやり取りをしている状況で、起床時間や朝食に影響を及ぼし、生活習慣が損なわれるという悪循環に陥っている生徒もいると考えられます。また、宿題をあまりしない生徒や家庭学習を全くしない生徒の割合が昨年より増加しています。学力の二極化の大きな要因であり、対策を講じていく必要があります。

<保護者・生徒のみなさんへ>

○生徒の皆さんにしっかりと取り組んでほしいこと

- ①早寝・早起き、朝ご飯など規則正しい生活を心がけ、体調管理に気を配ろう。
- ②安心・安全な学年・クラスで生活することで、授業へ取り組む雰囲気良くなります。違いを認め合い、共に高め合う集団をつくるよう、協力しよう。
- ③互いの信頼を深めるため、しっかりあいさつをし、きちんと清掃活動に取り組もう。
- ④学習内容を正しく理解するために、授業に集中し、積極的に参加しよう（考えよう、自分の考えをまとめよう、発言しよう、耳を傾けよう）。
- ⑤家庭学習を計画的に進められる人が少ないです。計画的に、予習・復習などの準備を十分にした上で、授業にのぞもう。
- ⑥本や新聞を読むことで、読解力がつきます。本や新聞に親しみ、読書の習慣をつけよう。

○保護者のみなさまに協力していただきたいこと

- ①早寝早起き、朝ご飯、あいさつなど規則正しい生活を心がけるよう、ご指導ください。
- ②自尊意識や自己肯定感、意欲向上のため、よい面は積極的にほめるよう、お願いします。
- ③授業により前向きに参加するため、予習・復習など、家庭での計画的な学習習慣をつけるよう、ご指導ください。
- ④授業内容をより効果的にするため、宿題や提出物はきちんと出すよう、ご指導ください。
- ⑤家族で会話する時間を大切に、可能な限り行事等への参加をお願いします。